獣 医 学

大阪府立大学　山手研究室：山手丈至先生
J 班　発表者：水原萌、永藤千晶、今田早紀、小林史歩

研修内容

1.　傷口の止血の働き～血小板～（史歩）

怪我をすると血管が傷ついて普段は覆われている血管内部のコラーゲン線維が露出する。
血小板はこれを感知し、粘着性を発揮して血小板同士がくっつきあいながら傷口に集まってフタをする。
さらに血小板はセロトニンというホルモンを放出して血管を収縮させ、傷口を小さくする。
このときにフィブリンという粘り気のある線維が絡みついて、血小板だけでなく赤血球や白血球も巻き込んで血栓(かさぶた)を形成する。

2.　抗原、抗体（萌）

マクロファージは体内に入ってきた細菌などの異物を食べ、殺菌をする。
（注：しかし、傷口にどうして白血球が集まるかなどは不明である）
また、より重要なのは殺菌作用以外に異物を消化分解し、その異物の情報をTリンパ球に与えて交代を生産するのに働きかけること。
これが抗原に抗体が引きつけられる仕組みである。



3.　怪我が治るメカニズム（千晶・早紀）

マクロファージがTGF－Bという因子を出し、それが線維芽細胞に刺激を与える。
刺激を与えられた繊維芽細胞は筋線維芽細胞へと形成し、さらに線維化し傷口が修繕されて治癒する。